



イブキハタザオ	<i>Arabis gemmifera</i> (Matsum.) Makino var. <i>alpicola</i> H.Hara	準絶滅危惧
		アブラナ科
選定理由	分布域の一部において生育の条件が悪化しており、種の存続への圧迫が強まっていると判断される。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	株状になる多年草。全草に星状毛を密生する。茎は高さ10--30cmになるが、軟弱で、花後に倒伏して地に着き、枝から発根して新芽を出す。根生葉は有柄で頭大羽状に分裂する。茎葉は細く、羽状に中裂するか鋸歯縁。花期は3-5月。枝先に総状花序を出し、白色で小さな十字状花を開く。長角果は線形、数珠状にくびれ、長さ1.5-2cm。	
生態的特徴	山地に生える。	
分布状況	県内では県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の西部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できないことのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良